

## 高等学校グランドデザイン会議第4回検討会議概要

日時：平成19年 3月22日(木)  
13:30～16:30

場所：県庁西棟大会議室

### <出席者>

蛇口議長 友田副議長 相川委員 飯田委員 大久保委員 加福委員 櫻田委員  
佐々木昭則委員 佐々木潤一委員 高山委員 豊川委員 野呂委員 藤井委員  
前田委員 山田委員

### 開会

### 司会

それでは定刻になりましたので、ただ今から高等学校グランドデザイン会議第4回検討会議を開会します。それでは蛇口議長に議事進行をお願いします。よろしくお願いいたします。

### 蛇口議長

本日もよろしくお願いいたします。今日の議題は、専門委員会で検討した内容についてのとりまとめという事ですが、各専門委員会及び各地区部会の皆さんが大変な苦勞をされてここまで来た事に感謝します。色々な問題点が今日決まるのか、あるいは専門委員会に投げ返すべきなのかを含めて、忌憚りの無い意見をいただきたいと思います。できれば皆さんに発言いただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。その前に、前回の議事録の確認です。

### 議事録確認

### 【事務局が、配付資料に基づき説明】

### 蛇口議長

何か意見はありますか。よろしいでしょうか。

審議に入る前にこの検討会議の方向性についてですが、焦点はあくまで専門委員会の検討状況についてとりまとめると言いますか、ある程度の方向性を決めて、教育長への答申や中間まとめに向けて今日は進みたいと思います。この検討会議も4回目まで来ましたが、流れとしては理論・ビジョンから入ってだんだん実務的な問題に入ってきて、相当具体的な線が出てきた所です。今日は皆さんの思いと言いますか、色々な思いや言

い足りない点があるのではないかと思いますので、もう少しそういう点について皆さんから発言いただきたいと思います。この第4回検討会議の進行としては、この「専門委員会検討状況とりまとめ」がひな型になる訳ですが、その前文みたいなものがあるのもいいのではないかと思いますので、それにつながるような意見を自由に発言していただければありがたいです。

手始めに、リラックスしていただくために私の方から申し上げます。この「専門委員会検討状況とりまとめ」を見ると、一番最初に「1学年当たりの適正な学級数」とあり、「青森市、弘前市、八戸市の普通高校については、6学級規模以上の学校規模を標準とする。」とあります。これを普通高校に限るのは実務的には正しいのですが、ただし9ページで「統廃合による新しいタイプの高校の可能性」を言うのであれば、あえてここに書く必要があるのかという疑問があり得ます。竜頭蛇尾の逆と言いますか、最後に大きい項目が出てくる感じがします。

2点目は、普通高校の在り方について、まずは伺いたいという気がします。そんな失礼な言い方があるかと思われる方もいると思いますが、普通高校の実態は色々あると思いますし、実態としては相当現実対応していると思います。それをもう少し掘り下げる事によって、あるいは商業高校の在り方論まで行くかもしれません。その辺について、そこまで掘り下げた議論がされるとありがたいと感じています。

3点目は、例えば青森県は農業県であり、水産県でもあります。我々が専門高校の事を考える場合に、農業高校の再編だけでいいのでしょうか。農業大学や海洋大学といったものが、どうして今までなかったのでしょうか。そういう話し合いは実は以前にもしているのですが、色々な意見、方法論、高校を中心としたビジョンを皆さんそれぞれお持ちでしょう。青森公立大学は、実は農業大学や海洋大学、そういう方向であるべきではないのか。どうして、私学でもできるような領域の公立大学を作ったのか。今からでも方向転換は遅くないのではないのか。そういう議論もできると思います。この会議もほぼ最終回に近いですから、そういう観点も含めて、将来どういう高校生を育てるのかという思いが語られると、本当の10年後を見越した会議になるのではないかと思います。できるだけ大きな目で、青森県の高校をどういうふうにするという観点から見ていただければと思います。NHKのテレビを見ていましたが、話題は主に小・中学校でしたが大体似たような意識が高校にもあるのではないのでしょうか。有識者が色々な発言をしていましたが、そういう観点からも掘り下げてもらって、中間まとめにできるかは分かりませんが、最終的にもう少し格調高い報告書がまとめればいいのではないのでしょうか。皆さんの言いたい事や思いが、もう少し伝わる感じにしたいと思います。長くなって申し訳ありませんが、これから地区部会長に報告してもらいます。資料は皆さん見ているという前提で、実情については独特の物があれば言ってもらい、今の事を踏まえた観点からも発言してください。それでは、佐々木部会長からお願いします。

地区部会報告

佐々木（昭）委員（東青・下北地区部会長）

とりまとめの大きな部分の話はさて置いて、最終的な話し合いの中で忘れた部分のお話をもう少しさせていただき、前回の東青・下北地区部会の校舎制、定時制、学校連携についての様子をお知らせしたいと思います。

まず校舎制の今後の方向性ですが、全体的には専門委員会が出された意見の中にもありますが、校舎制は見直すべきだという事と、新たに校舎制を作るのは望ましくないというのが基本の意見です。東青地区の今別高校と平内高校については、JRの沿線上にあり青森市に通学可能だろうという事で、将来的に統廃合の流れでいいという事でした。下北地区の大畑高校と川内高校については、この前に議長が話したむつ市内の学校の4学級以上の維持を考えると、これも最終的には統廃合でいいのではという事でした。ただ、川内高校が大湊高校の校舎制という事ですが、大湊高校が総合学科で川内高校が普通科という事については懸念の意見が出ていました。いずれにしても校舎制については、廃止し統廃合するという方向性です。ただ大間高校については、やはり校舎制にする事は検討を要する、平たく言うと反対だという意見でした。

定時制については、有り様が昔の定時制とは様変わりしているのは重々承知していますが、むつ・下北地区としては田名部高校には残して欲しいという意見です。

学校連携のうち、中高連携について必要性は十分認めるが、むつ市における大湊高校と大湊中学校の連携型中高一貫教育については反対だという事でした。資料収集のために大湊高校と大湊中学校を訪問し意見を伺った委員がしまして、その委員の話では大湊中学校3年の在籍数が50名弱、その中で大湊高校を希望するのが半分程度、入学するのが4分の1程度しかいないそうです。それ以外の4分の3が一般受験を経て入学する状況を見ると、大湊中学校からの4分の1の入学者の学力に対する懸念があるようです。同時に、総合学科という事が大きく響いていて、都市における連携型中高一貫教育の実験校の役目はもう終わったのではないのでしょうか。この時点で評価し、やはり連携型中高一貫教育の有り様を考えるべきです。ただし、併設型であればそれは大いに効果を期待したいという意見でした。やはり、連携型中高一貫教育は旨く機能しないのではないのでしょうか。委員の中に大湊高校の卒業生がいて、総合学科から中高一貫教育という事で、急激に色が変わってきている気がして将来が心配という事でした。むつ・下北地区としては、田名部高校と大湊高校の2校が引っ張り切磋琢磨する事が望ましいので、その将来を考えると連携型中高一貫教育は解消するべき、という意見が出ていました。高大連携については、地元で大学が無い事もあり、積極的には考えにくい、という意見でした。基本的には専門委員会では話された方向性で、具体的に様々な意見があったという形です。

蛇口議長

特に校舎制についてなのですが、見直すべきという意見が出ていますが、この検討会議がどう受け止めたら良いのでしょうか。今後は慎重にという意見はほぼ一致している

と思うのですが、我々検討会議が県議会まで通っている校舎制を検討の対象にしていいのか疑問があります。それを期待されていると考えていいのでしょうか。

佐々木（昭）委員（東青・下北地区部会長）

これまで専門委員会でも話されたように、地域の特殊性により残さざるを得ない所があります。例えば大間高校辺りは、地域性を考えるとできれば校舎制にはしないで残して欲しいです。現に校舎制を取っている学校については、どんどん統廃合を考えて行くという事を考えていいのではないかと、という意見です。

蛇口議長

その問題については後程また触れるとして、次は野呂部会長お願いします。

野呂委員（西北・中南地区部会長）

地区の方の意見としては、校舎制を存続するべきという意見と、10年後には生徒数が減る事が目に見えている現状を考えると統廃合を考えなくてはいけないという意見がありますが、やはり地域的な事を考えると、例えば深浦高校のように距離的に見ても不可能だという場合は柔軟な対応をせざるを得ないのではないかとという意見です。これに関しては、教育水準を考えるとやはり校舎制は大変な部分があるのですが、特殊な事情を考えると結局はそこへ行ってしまふのかなという気がします。中には、非常に優秀な生徒であれば下宿させてでも行きたい学校へ行くのだから、そこまで校舎制を極端に残しておく必要もないのではないかとという意見もありますが、高校も義務教育化されてしまったような現状では、そこもまたやはり悩みがあるという意見が多かったです。

定時制の在り方については、できれば多様な選択肢という事を考えると、各地区に必要があるのではないかとという意見です。ただし、工業高校の定時制に関しては、高等技術専門校という道もあるし役目は終わったという意見と、やはり工業に関したのも残しておくべきという意見に分かれました。

学校連携の方向性については、現在設置されてある学校、あるいは来年度から設置される併設型中高一貫教育の三本木高校の様子を見て考えるべきではないかとという事ですが、それを考えていると次の案が間に合いません。現在設置されてある連携型中高一貫教育の現状を分析して結果は出るでしょうが、併設型中高一貫教育はまだまだですので、様子を見るというのも疑問に思うという意見もありました。ただ、西北地区にも連携型中高一貫教育の高校があってもいいのではという意見がありました。また、先程もありましたが、青森県の将来の高校生のビジョンみたいな話があってもいいのではという事で、全国規模で活躍できる人材を育てるべきではないかとという意見があり、やはり、その場合は連携型中高一貫教育ではなく、併設型中高一貫教育の方が効果的ではないかとという意見もありました。高大連携ですが、やはり中南地区はいいのですが、西北地区では大学との連携と考えると問題があるが、大学だけではなく農業大学校やあらゆる面で

の連携を進め専門性を高める事も必要なのではないでしょうか。前にも出ていますが、高校と中学校の連携について、高校の教員が中学校に来て授業をしたり、中学校の教員が高校に来て授業をしたりするような、現状のままでの連携もできるのではないのでしょうか。最近はそのような事も多くはなってきたという意見がありました。

蛇口議長

お話には無かったのですが、交通費の負担が可能であれば、一般的には校舎制は無くてもいいという事についてはどうですか。

野呂委員（西北・中南地区部会長）

中南地区では通学が不可能であるという意識はありません。ただ、西北地区では余裕はないという事だと思います。

蛇口議長

専門委員会の検討状況とりまとめの中の意見では触れられていないのですが、この辺をどうするのかと思います。これは我々の答申ですから、後で工夫をしないではいけません。校舎制についても、学校連携についても、本当に問題があったようで各専門委員会の委員長は苦労したという感じがします。それでは加福部会長お願いします。

加福委員（上北・三八地区部会長）

適正な学校規模・配置の在り方について、特に校舎制については、認定基準と言いますか、教員数や設備等が維持できるのであればそういう学校で勉強させて育てた方がいいのではという事です。ただ、子供が少なくなるという事は自分が受験する子供の親であれば分かりますが、ほとんどの人は良く分からないのです。本当に生徒数が少なくなる事をまず理解させないはいけません。校舎制はあくまでも例外としての校舎制なので、できれば校舎化はしない方がいいのです。進学対応には6学級規模が必要と言う時に、校舎制を残すと2学級規模の学校が増えて駄目になる、駄目と言うのは、学校規模が小さくなり先生も少なくなり子ども達に満足に指導ができないのではないかという事です。地区部会の委員の意見がそういう方向になってきています。以前は、小さい学校でも先生が一生懸命やってくれば子供が伸びるのではないかという意見が多かったのですが、今回はそうになりました。進学校だけは学級数を多く残し、競い合わせてそういう生徒を育てているのに、校舎制にして教員数が少なく、忙しくて生徒と触れる等の対応もできないようであれば困るという考えに変わって来ているようです。例えば、上北地区では8学級の減と新聞報道にもありましたが、そうなるほとんどが校舎制になってしまうのではないのでしょうか。そういう中では、親を説得するだけの話ができないのではないのでしょうか。うちの子供にとって、この地域がいいのかという意見も出てくる

のではないのでしょうか。勿論、校舎制でもいいから地域に学校は残したいけれども、それだけでは子供達の将来の夢はかなえられないのではという強い意見がありました。特に、村の近くに高校が無いので、小学校卒業の時点で進みたい高校を目指してその地区の中学校に入学させる、あるいは下宿させたりする。そういった事をして勉強をさせ、目標の高校に進学させるという事を何十年も前からやっているという意見がありました。ですから、そういうふうに切磋琢磨し仲間と一緒に勉強ができる学校の方がいいのではないかという事で、学力を磨ける大規模校を残した方がいいという意見でした。

定時制に関しては、地区としては三沢高校をそのまま存続させて、八戸中央高校と2つの定時制があればいいです。定時制については色々な意見がありますが、そうではなく、定時制に行ってちゃんと進学した子どももいますし、就職した子供もいますし、定時制の先生に一生懸命に指導してもらっているのだから、今あえて資格や免許を取るためにとか、働きながらとか、そういった事を言わなくても、受け皿になってくれる学校もやはり必要という意見が多かったようです。ですから、できるだけ定時制は存続してもらいたいという事です。

学校連携の今後の在り方については、併設型中高一貫教育の三本木高校附属中学校が地区にできる訳ですが、なぜ三本木高校でなければならなかったのかという質問がありました。やはり、三本木高校は進学にしても部活にしても、この地区で非常に頑張っている学校です。そういう勢いがある学校に、中学校をくっつけて勉強させる事が必要なのではないのでしょうか。ただ、中学校の先生である委員からは、地区の中学校としてはエリート集団を作る学校でいいのか。教育とはそんなものではないと思う、という意見がありました。普通であれば市立中学校に入ってくるはずの優秀な生徒がほとんど県立三本木高校附属中学校を受験し、大体1学級近い生徒数が行ってしまうと我々の中学校の学力が落ちてしまうという事を訴えていました。ただ、やはり青森県は医師不足という大きな看板を掲げていますが、やはり一生懸命に勉強させて優秀な子ども達を育てる事も学校の役割ではないのでしょうか。そういう意味では、この併設型中高一貫教育の学校には期待できるので、是非頑張っただけで欲しいという意見です。連携型中高一貫教育は田子高校あるいは大湊高校でもありますが、地区の生徒はその地域の高校だからそこに行かなくてはいけないという事であれば、将来子ども達があれば何だったんだ、本当は違う学校へ行きたかった、という考えも出てくるのではないのでしょうか。全県一区のはずなのに、そういう事をしてはどうなのか、という事が話の中で何回も出てきました。また、六戸高校で併設型中高一貫教育をやったらどうだったのだろうという事など、そういう意見があちこちから出ていましたが、とりあえず併設型中高一貫教育については、地域の人もそういう風に期待しているという事です。

また、三八地区では13学級、上北地区では8学級、県内6地区では54学級の減をしなくてはならないようですが、上北・三八地区だけで21学級を削るというのは、これはどう見ても他の地区よりも多く、どうしてこうなるのかという意見がありました。地区に私立高校が多くあるのではという話をしたのですが、地域の中学校卒業生数の減少

割合からそうなったのかという意見でした。また、私立高校の学級数がどの程度減るのかという質問もありましたが、これには答える訳にはいきませんでした。地区部会の皆さんの考え方は、大体第1専門委員会で意見交換されまとめられた内容に準じていますので、その方向で行くのではないかと思います。

蛇口議長

併設型の中高一貫教育という事ですが、学校選択制の方に似てくる感じがします。それがいいのか悪いのかは別ですが、他の地区から見ると羨ましい面があるでしょう。校舎制については、上北地区の切実な声を聞かせてもらいました。

色々な問題点が出た所で、専門委員会の検討状況のとりまとめの1番目に移り、「県立高等学校の適正な学校規模・配置の在り方」というやや実務的な問題です。ここでは先程言ったように各委員が夫々のビジョンを持って、議論に入っただけであればと思います。3時まではこれについて話し、10分くらい休憩をした後に、「社会の変化と多様な進路志望に対応する学科・コース等の在り方」、「県立高等学校と中学校や大学等との連携の在り方」について、1時間くらい話していただきたいと思っています。ただし、高等学校の適正規模を論じる時にも相当色々な点を含んだ意見がありますし、校舎制の問題についても、今を重んじるのか、その後を重んじるのか、悩ましい点がありますが、一応はこの資料に沿って、実情は先程地区部会長から聞きましたので、範囲は限定せず皆さんの思いを中心にお話していただけるとありがたいです。それでは、適正な学級数について、豊川委員長から委員会の様子等をお願いします。

豊川委員（第1専門委員会委員長）

前回の検討会議で宿題にされたのですが、第1専門委員会ではここにとりまとめたようになりました。旧3市では普通高校は6学級以上、3市以外の普通高校と旧3市も含めて専門高校・総合高校は4学級以上を標準とする、という事です。先程来皆さんから色々意見がありましたように、高校教育の水準維持や向上のための最低条件としてはこうなるだろうという意見でした。存続・廃止については専門委員から切実な意見はあるのですが、やはり高校教育ですから標準は必要という事です。更に、地域との密着度と言いますか、議長はコミュニティー立・住民立と表現しましたが、やはり例外もあるでしょうから全部を1つの条件で縛るのは無理ではないか、という意見が強かったです。統廃合の組み合わせについては、地域にも事情があるので柔軟に対応するべきであろうという事です。校舎制については、皆さんも言われたように、1学級が維持できないような学校であれば、高校教育のためにはいつまでもそのままではいけないので、人数に対して一定の基準を設けるなどして、こうなりますよという事で理解してもらわなくてはならないのではという意見がありました。勿論、継続審議が必要だという事です。定時制については、生涯学習の場として必要という事です。ただし、全県的な視野で統廃合を含めて適正な配置を行う時期です。専門委員会では、定時制は無くても困らないの

ではないかという意見がありましたが、最低限各地域にあるべきだろうという事になりました。第1専門委員会の概要は以上ですが、不足な部分があれば、委員の方から補足をお願いします。

蛇口議長

大体の賛意が得られたと言いますか、地区の意見も、やはり高校教育であるのだから教育の方を重視するのだ、という所に集約されてきたというように理解させていただきました。従って色々な事はあるでしょうが、大体こういう事でいいと私は思います。ただ、3ページで「分野の異なる複数の校舎を統合して1つの高校とする事については十分見極める事が必要」という事で、やらないような表現になっている感じがしますので、そこは柔軟に色々な事を考えてやっては、と直した方がいいと思います。それで、9ページの色々なタイプの学校があり得る、という部分につながるというのではないのでしょうか。

それでは、少し校舎制について集中して議論したいと思います。発言する委員はいますか。

A 委員

学級数についてこのまとめによると、普通高校は3市では6学級以上、それ以外の普通高校と専門学校・総合学科は4学級以上とすると、将来少子化がどんどん進んで行くと自然に校舎制に行く人は非常に少なくなるのではないかと、親の気持ちとして思います。やはり、校舎制についての話を聞くと思うのですが、本校との兼ね合いと言いますか、教員の配置等を考えると非常に不安を感じますので、6学級～4学級の標準を崩さないままで行くのであれば、自然と校舎制に行く子どもは減ると見ています。地域的に交通が不便でそこに行くとか、経済的に少し市内に行く事が無理という場合に行くという事はあるのかもしれませんが、親としては少し頑張っけて市内の方に行かせたいと考える方が多いと思いますので、校舎制を残すと決めるのであれば将来的には3市の普通高校は6学級という標準を崩して減らして行くべきだろうと思っています。

蛇口議長

確かに子どもや父母の立場に立つと、少子化が進むと校舎制の学校に行かなくなるという判断はもっともだと思います。しかし、検討会議は、まだ始まってもない校舎制についてどうこう言う資格があるのでしょうか。あるいは、聞かれて答えなくてはいけないのでしょうか。専門委員会の委員長も困ったのではないかと思います。私は、割り切って臨んだのですがグランドデザイン会議は今後10年の話ですので、それを我々が意見を集約して決めますが、前に決まっていた事は言葉が悪いが行政マターという感じがします。間違いだとか言う資格はありません。ただし、将来について校舎制は止めた方がいいのではないかと、慎重な方がいいのではないかと、ここまでは言えますが、今まで



走ってきた物について、それは変えるべきではないかと言う資格があるのかどうか。その辺まで考えなくてははいけません。どうですか。何か意見を言わなくてははいませんか。専門委員会にまたお願いしても非常に困るのではないのでしょうか。基本的に校舎制について我々が入っていくべきかどうかについて、第1専門委員会で議論はありませんでしたか。

## B 委員

議長が言ったような所までは意見は交換していませんが、どうしてもそこに行ってしまう。私の思いで言えば、第2次実施計画の時点で何でそこまで踏み込まなかったのか、何で今頃こんな事をしているのか、そう思っています。第1専門委員会では校舎制についても皆さんの意見と同じようですが、ただ一定の条件を作って統廃合を検討しようという事で終わっています。そうしなくてははいけない所にあると思われれます。

## 蛇口議長

学校全体として100名以下になったら廃校になるとか、色々な規則があるようですが、その規則もさる事ながら、このグランドデザイン会議が方向性として統廃合を出すのでしょから、そしたら、それを踏まえてあるいは過去のいきさつを踏まえながら、後は県教育委員会で適宜やっていただくのではないのでしょうか。その基準をどうするかについて、率直に会議に求められるのは困る気がします。判断のための材料はもう出尽くしている気がしますので、それでもって良いのか、あるいはそれを再度専門委員会でそれでいいのか確認してもらうのか、その辺りではないかという気がします。県側もそれでよろしいですか。形としては一応戻しますが、グランドデザイン会議の結論を踏まえて、後は県の方でやってくださいという事になると思います。各地区の実情や今までの経緯を踏まえて決めるのがいい、という事になるのではないのでしょうか。決して基準を決めなくてははいけない、100人とか240人にするとか、そういう問題ではないという気がします。

## 事務局

校舎制の問題ですが、校舎制を平成19年度からスタートするという事で今回の検討会議に項目として上げたのですが、地区部会や専門委員会で校舎制に対する心配事など色々な事を話していただいています。そして、その背景には学力の問題があるのではないかと思います。色々な所で全国で活躍できる人材の育成という意見が出ていますが、県全体を見渡すと県内64校の全ての高校において世界で活躍できるレベルの教育が本当に必要なのでしょうか。これは考えなくてははいけない問題です。そういう所から考えると、6学級必要な学校もあるでしょうし、これは私見ですが、もう少し少ない人数の学校規模の普通高校もあってもいいのではないのでしょうか。平成19年度からスタートするという事なのでまだきちんとしたデータがありませんので、専門委員会や地区部

会から色々な意見をいただき、その辺の事を踏まえ、今後我々の方で校舎制について実際にスタートしながら、校舎制がどうあるべきかを考えて行くという気持ちです。

蛇口議長

本当にそれでいいと思います。校舎制の統廃合の基準については県教育委員会に責任を持ってもらって、意見を集約したという事にしたいと思います。

友田副議長

基準について調べてみたのですが、やはり都道府県によって基準が違いますので、回数が少ない会議の中で数値的なものを出して行く事は難しいので、青森県は青森県のデータに基づき、時間をかけて県民に理解されるような形で出してもいいのではないのでしょうか。専門委員会は、大きなビジョンや方向性を出すのではと思います。

蛇口議長

普通科及び普通科系の専門学科、職業学科、並びに総合学科の在り方についてですが、青森県の高校では普通科の中に商業のコースが相当入っていて、2割くらいの就職する生徒に備えているという事を教えてもらい感心しています。こういう普通科志向の世の中にあっても、きちんと対応している事です。ただ、それが商業系なのか、情報系なのか、ビジネス系なのか、という問題は1部あると思います。それでは、普通科、職業学科、総合学科の在り方について集中して、ビジョン等でもいいのでお話しください。

C 委員

第2専門委員会でもかなり色々な形で議論されています。レベルが少し違ってしましますが、議長が思いの話をされましたが、農業に関する学科に非常に思いがあります。青森県の場合は、農業をする生徒達をどう育てて行くかというのが大きな県政の取り組みになるのではないのでしょうか。そう考えた時、農業高校を安易に統廃合していいのか、そうしないための工夫は何なのかを、根本的に考えて行かなくては駄目だと思います。小学校に勤務していた時に総合学習がスタートし、地域の人が提供した田んぼで子ども達が水田作業をしました。地域の人々の協力を得て実施したのですが、私くらいの年齢になると、それは農家で育った者として当たり前的事として経験していたのですが、若い先生方は青・少年期に一度もそういう経験をしていない人がほとんどでしたので、せっかくそういう経験を学校の向かいにある田んぼでできるのに、子ども達にそういう事をさせる事に非常に消極的でした。消極的だったという事は、後押ししない限りはやらないのです。それでは、子ども達が経験するチャンスを無くする事になります。普通にご飯を食べているが、どういう形でお米になるのか。お餅を食べているが、どういう形でお餅になるのか、知らないままにいる事になります。そこで総合学習の1つとしてやろうと、かなり先生方の後押しをしてやった経験があります。

また、社会教育センターの中庭にリンゴの木が創設当時から植えられてあるのですが、私が着任した時、枝振りが全くリンゴの木ではなくびっくりしました。剪定は植木屋さんが来て周りの木と同じように切ってくれるという事でしたが、これは大変だと思いました。他県から来る人に、これがリンゴの木ですよと見せるために植えたとすれば、それを維持しなくてはと思い、藤崎園芸高校にお願いして、生徒達に来てもらい剪定をしてもらいました。そうしたら、今年は今までに無いくらい良いリンゴがなったと職員が写真を送ってくれました。親に言わせると、こういう博打みたいな農業、風が吹くとすぐ駄目になり首つりしなくてはいけないなどと言う親達は自分の子どもには農業を勧めず、農業でない仕事を一生懸命勧めるのです。農業高校にいる生徒達は、農業高校に行きたくて行っているのではない生徒達が多いのですが、藤崎園芸高校の生徒達と接して、自分達の力が発揮できればいいと思う、やってよかったと思う、という声を聞き、涙が出るほど嬉しくなりました。それ以外もあるのですが、学習する場が無ければどんどん技術が廃れてしまいます。現在農業をしている人の高齢化が進んでいるので、まだまだいいリンゴが取れる農園でも、手が足りなくなって切ってしまうという事があります。そういう事を考えた時に、津軽の米やリンゴを中心とした、県南は様々な野菜を中心とした青森の基幹産業としての農業を持続するためにも、グランドデザイン会議で、そういう思いを入れ込んで行かなくてはならないのではないかと考えています。

#### 蛇口議長

7ページを見ると農業に関する学科について書いてありますが、これは全く正しいのですが、県からはいくら何でもビジョンが無さ過ぎて寂しいという話がありました。私はそれを聞いて嬉しく思いました。やはり農業県なのであれば、もう少し本腰を入れてビジョンが入った、将来が明るくなるようなものができるのでしょうか。皆さんもそういう思いではないのでしょうか。志願者がいないから止める。それだけでいいのでしょうか。農業大学は私立ではできません。やはり公立（県立、コミュニティー）民营、そういうものを検討して、それができないのであれば秋田県と組んでもいいのではないのでしょうか。海洋大学については岩手県や秋田県と組んでもいいのではないのでしょうか。そういった事をやりながら、水産高校も農業高校も情熱のある物にして行かなくてはなりません。そういう観点からすると、少し寂しく格調に欠ける面がある気がします。ここは後半で話す部分とも密接に絡んでいきますので、もう少し発言いただければと思います。

#### D 委員

定時制の高校の在り方について、非常に大事な部分が出ています。今までは働く人が行く学校という事で捉えられていましたが、今は不登校の生徒や病気がちな生徒が行ったりする非常に大事な学校になっていて、そういう生徒達を受け入れ育ててくれています。実際にいたのですが、不登校でほとんど中学校に来なかった生徒が、北斗高校に入

り国立大学へ入った事がありました。何らかのきっかけがあって、勉強し始める事もあると思います。そういう意味では、定時制は生涯学習の場とここにも書かれていますが、これからますます大きな役割を果たして行くのではないのでしょうか。県立高校を落ちた生徒で、私立は合格しているが経済的に行けないので定時制に行って勉強したい、という生徒もいます。そういう意味でも、多様な生徒が集まって行きますし、それで指導していますので、これからも定時制を大事にして欲しいと思います。

蛇口議長

定時制については、工業高校にこだわらなくてもいいのではないかという意見がありましたが、それについてはどうでしょう。定時制については一般的な学科でいいのではないのでしょうか。

D 委員

その生徒によっては、色々な技術を身に付けたい子どももいますので、色々あっていいのではないのでしょうか。

蛇口議長

昨日テレビで、中学校の校長3000人を民間から採用したら凄く良くなるのではと言っていました、どう思いますか。

E 委員

民間校長が話題になっていますが、教育分野の長い経験を蓄積した校長と、学校は1つの経営体という観点からの発想が活かされる民間校長のそれぞれについて良い点があると思います。しかし、総合的に見てどちらが良いかという考えは今の所は持ち合わせていません。

冒頭で議長が話されたビジョンについてですが、私も是非議論する時間を取って、将来を担う若者へのエールと言いますか、そういう気持ちを出したいと思っていました。専門委員会で色々議論された内容は非常に分かりやすいのですが、言葉は悪いかも知れませんが課題解決型と言いますか、少子化という直面した問題を解決するためという観点が強く出ています。それに対応する形で、こういった生徒を育てて行くのだ、という議論をお願いしたいと思っています。

少し戻りますが、1学年あたりの適正な学級数について4学級以上を標準とするとあるのですが、その中で総合学科について、4学級では教員数に縛りが当然出て、先生の手配が大変になるのではないのでしょうか。現在5～6学級でも大変だという中で、更に減らすとなると総合学科が可能なのかなと思います。非常勤で対応するとか、色々な考え方はあるのかもしれませんが、大丈夫かなという思いがあります。

また、総合学科と単位制のはっきりした区分けが、中学校の先生や保護者に十分理解さ

れているのか少し疑問点がありますので、これから工夫する余地があると思います。

定時制については、理由が色々あって定時制に行っていると思いますが、高校に入る時に気持的に定時制へというケースも多いと思いますので、そういう意味では、各地区に1校を基本とするという形は是非必要だと思います。

蛇口議長

総合学科の在り方について何かありますか。職業学科も学べるし進学もできるとあるのですが、それを発展させて考えると、総合学科に入学したけれども違う学校、普通高校へ転校したいと考えた時に転校もできるというのではないのでしょうか。多様な進路志望に対応する、という事が謳い文句になっていますが、カリキュラムが違うなど色々あるのでしょうか、自由に転校できないと決めるのではなく、普通高校と総合高校が提携して1年は同じカリキュラムにし、その間に転校できるような仕組みを考えてあげると生徒の励みにもなりいいのではないのでしょうか。基本は職業学校みたいなものだとしても、そういう形があってもいいのではという気がします。

E 委員

今の総合学科は普通科をベースにしているもので、職業学科とは系列が違っていて考え方が違うので、今の総合学科と職業学科と一緒に議論するのは難しい感じがします。職業学科の中で総合学科というのはイメージできないのですが、工業高校の中では考えられるかもしれません。総合学科と普通高校の転校はあっていいと思いますが、やはりカリキュラムや履修状況により難しいのではないのでしょうか。転校を前提にしたカリキュラム等のある程度は工夫はできると思いますが、ただ転校を前提に考えていいのかとも思います。

蛇口議長

教育長や校長が民間だったら何でもできるのであれば、色々な事をやってもらった方がいいと思います。そこまではと思われるかもしれませんが、どうしてあの時に議論しなかったのかなとなってしまいます。本当に生徒達のために考えるのであれば、色々な選択肢が選べるような事を考えなくてははいけません。

高山委員（第2専門委員会委員長）

第2専門委員会と第1専門委員会は非常に関係があると思います。社会の変化という事ですが、ここ何回かを振り返ると人口減少と生徒数減少に対応した学校再編がテーマにあります。それはもう少し考えると核家族化という事と、世帯構造が変わっているという事です。特に郡部で考えてみると、兼業でお父さんが農業、お母さんが農協などに勤めて2つの収入があったのが1つになった等があり、地域経済がますます厳しくなるのではないかという事になります。地域経済、家計収入の減少と教育負担の増加という

事で、本人が行きたくても家計が許さないという事になると、教育の機会均等として何とかしなくてはいけないのではないのでしょうか。何とかするためには、青森県が行政施策として何をやるのか、産業振興として何をやるのかと考えると、攻めの農林水産など色々な青森の得意分野についてやっていますので、それに合わせた教育が是非必要になるのではないのでしょうか。その時に地方で必要なのか、できるのかは分かりませんが。今までの話では、全国と同じ輪切りの高校生を育てようとしているのではないのでしょうか。地方に生きる・暮らす高校生の姿を考えなくてははいけません。今までの中央と地方という対立関係で言うと、出稼ぎや景気が良くなると都会に行ってしまう、残っているのはおじいちゃんおばあちゃんという事になると、結局県や市町村が色々とお金をかけて育てた大事な優秀な高校生が都会に吸い込まれてしまうという事になります。それであれば、地域の事をもっと考えて、地域の施策にある程度は特化した教科を設置するなど、そういう部分で引き留める事も1つの道なのかと思います。やはり、普通科と職業学科のそれぞれを考えなくては駄目です。事務局からは世界に羽ばたく高校生という事が言われていますが、それが全てではありません。機会は与えますが、3市の進学校へは上級の難関校に進む人が行く訳ですから、それ以外は一般的な職業に就くために世間や一般の会社が求めている人材、コミュニケーション能力やチャレンジ精神、そういったものに加え人間性に注目してやらなくては、せっかくの高校生が育って行かないような気がしています。

#### 蛇口議長

普通科に併設する専門学科・コースについて、スポーツ科学科以外は成功していないという事ですが、全部が成功する訳は無いのです。そうであれば、無くするものは無くする方向ではっきりさせた方がいいのではないのでしょうか。ずるずる行って結論が出ない事が一番まずいと思うのですが、その辺についてまとめる気はありますか。

#### 高山委員（第2専門委員会委員長）

検証という部分では、これまで細分化し専門性を高めてやってきたものが、あまりに細かくなり過ぎて世の中について行けなくなったのではないのでしょうか。既に軌道修正はできない状態なので、やはり一定のルールを作り、例えば数年間連続で定員に満たなく学校運営ができないという場合は、見直しの対象にするべきです。今度はあまりピンポイントではなく、地域の要望に応じた、あるいは社会全体のニーズに答えた、という事では生徒の道を逆に狭めてしまう感じがします。普通科は進学志向が根強いですし、色々な高度な技術を習得したいという高校生も専門学校などへ進学志向が強まっています。そういう部分を見ても高校の特色が段々薄まってきていますので、ここでもう一回特色を出して、地域社会から信頼を得て、生徒が入りたいような学校を再興するべきだと思います。

蛇口議長

これで前半を終了して、10分休憩したいと思います。

~~~~~ 休 憩 ~~~~~

蛇口議長

それでは再開します。

F委員

第2専門委員会で検討してきた感ずるのは、これまでは高校側からのメニューを用意し過ぎたという事です。

これからは入学する学校を選ぶという事の他に、入学後に生徒が転校がしやすい工夫はできないものだろうかと考えています。普通高校と職業高校、普通高校と定時制の相互交流などが可能になれば非常に良いと思います。工業高校、商業高校、農業高校、総合高校間で相互に学習できる仕組みはできないものかと思いました。

また、今団塊の世代が退職する事になります。私の同僚は仕事をしながら弘前大学の大学院に通って博士号を取得しました。同じように社会人が農業高校で園芸の勉強をしたいとか、小さい頃から絵を習いたかったので美術科で学ぶとか、団塊の世代に限らず多くの人に門戸を広げて、高校の垣根を低くする事が良いのではないかと思います。そのような事が農業振興や農業高校の活性化の手がかりにつながる可能性があるのではないかと考えます。

このグランドデザイン会議で基本的な事を検討するのは大事ですが、知事部局で県民局ができたように、例えばむつ地区に一定の教育予算を配分し、そこで色々な取り組みができるような仕組みはできないものでしょうか。県教育委員会が権限を持つとして、それとは別の枠で各地域にも一定の権限を認めて、各地域が自由にできる範囲を広げてもいいのではないかとこの事です。以前検討した環境やエネルギーに関する学科の新設についても、権限を地域に移してその地域に合ったものを地域で考えられないだろうかという思いがあります。このような考え方を、グランドデザイン会議がこれから示す今後10年の展望の中に取り入れられないかと思っている所です。

蛇口議長

最後の県民局ベースでの教育の分権ですが、そういう事ができれば県民の皆さんとの距離も縮まりますし、実も上がると思います。

私が実質コミュニティー立や住民立となっている学校は残した方が良くと言ったら、そのような曖昧な表現では駄目だという事で、その地区から生徒が来るか来ないかという尺度になったのですが、確かに実際はそのとおりだと思います。しかし、私が言っているのは全て県庁で決めてしまうのではなく、県民局ベース、地域ベースで実際に運営

して行くというような学校があっても良いのではないかという事なのです。ある程度大きな学校や進学校みたいなものであれば県の直轄でもいいと思います。しかし、今後小さな学校や色々な種類の高校ができてくると思います。そうすると教育の分権という方向で進まざるを得ないのではないかと思います。是非私からの意見については、社会学的な表現として理解いただければと思います。この点について答申に盛り込むというのは難しい面もあるかと思いますが、各専門委員長にはよろしくお願ひしたいと思います。

## G委員

少子化を考えると大変な恐怖を感じ、日本の今後はどうなるのだろうと考えている所です。2050年頃には、当初1億を割る程度であったものが内閣府の発表によると9千万人を下るのではないかという事が言われています。また青森県の人口が今147万人から100万を割るという事も予測されています。若い年齢の人達が激減して行き、65歳以上の高齢者の割合がどんどん増えて行くというような世の中になります。このように若い人が減って行く中で今考えて行かなければならないのは、次代を担う人が存分に貢献できるようにして行かなければいけないと思っています。また国もそのように考えていると思います。安倍内閣が発足し半年が経ち、新しい日本を創るという提言がなされました。そのためには教育の再生だろうという事です。その結果、教育基本法もすんなり決まりました。この中の第8条に私立学校の方向が明確に位置付けられました。今、教育関連三法について行われています。今後どんどん少なくなっていく子ども達をいかに私達が育てるのか。公も私もなく考えて行かなくてはと思っています。現在、高校生の30%は私学で養成されます。大学は80%以上と言われています。そういう中で国を上げて、地方行政が全力を尽くして若人達を育てるという観点に立たなければならぬと考えています。現実には、公私の問題、専門高校と普通高校の教育課程の問題。先程もありましたが一旦選んでしまうとそこから出られないという事であれば、それは旨くないのではないかと思います。生徒は色々な考えがあり成長して行くにしたがって変わって行く訳ですから、その辺も思い切った改革でなければならぬと思います。校舎化の問題ですが、是非なくてはならない学校もありますし、場合によっては無くする学校もあるかと思っています。校舎化になった場合の生徒、保護者の考えですが、そこでいいという方々もいると思います。経済的な面も多々あります。しかし、その地域の学校に残る生徒が果たして夢を持って、誇りを持って、将来の青森県のために日本のためにという考えになれるかという事があります。

是非残さなければならぬ学校は残してもらおう。その代わり無くする学校に対する経費というのを明確にして行くような事が必要ではないかと思っています。少し調べてみた所、青森県の全日制高校の1人当たりの公的な負担は、平成16年度で131万円程かかっています。その中には国費、県費、地方債等々の財源があります。特に、郡部の小さい学校ほど経費がかかっています。そして、教員の配置で見た場合、十分誇りを持って学べるような学校レベルに持って行こうとすると、もっと経費がかかるのではないでしょ



うか。そこで、どうしても無くせない学校は配慮し、比較的近い学校、例えば川内高校からむつ市にはスクールバスを通せばいいのではないかと思います。我校でもスクールバスを委託していますが、1千万くらいで年間を賄えると思います。1千万と言えば1、2名の教員程度ですが、2学級くらいの規模の学校を残しておくためにはその何倍もかかる訳ですから。校舎になる学校については、地域からも様々な要望があると思いますので、行政として何らかのサポートをしてあげる事で、大規模校に通い、誇りとプライドを持って、多くの仲間がいて、目標を持って有意義な学校生活を送れるのではないかと思います。その辺は2通りの考え方でやって行けないものだろうかと思っている所です。また、校舎についてはあと何年もつのかという事があります。今、平成21年の後の10年間の見通しを持って検討しているはずですが、すぐ2、3年後には詰まって行くという矛盾を抱えながら進めて行かなければなりません。それよりも、本当に思い切った事、地域に学校を作る事も大切ですが、地域の子供達はよりレベルの高い満足の行く学校生活を送りたいはずで、経済的な負担もありますので、行かせられないという家庭もあるでしょうから、その場合は十分な配慮が必要です。

青森県は人口減少率が全国的に見ても落ち込んでいます。今日、ここで話し合った事が無駄にならないような改革であって欲しいと思います。

#### H委員

この高校教育改革については、地域としては本当にたくさんの思いがあります。10年後の事を考えた場合、校舎制の10年後とは一体どうなるのでしょうか。地域の事を考えた場合、残さなければならないという地域事情がある場合はやむを得ないという思いと、校舎制になった時に本校と交流をするという話は聞くけれども、どういう交流ができるのだろうかという不安を保護者は持っています。その辺の説明が十分ではないという印象が、PTAの会合等でも感じられます。確実に減るのは職員数という事があって、そうすると十分な高校教育がなされず、本校とどういう交流をするのかという事について保護者は心配しています。

コースについては、地域にある特色あるコースというのは地域のサポートが多いと思います。また、普通科の中でコースという取組みをしている学校と、スポーツ科学科のように学科となっている学校とがあり、私自身旨く表現できない部分があり困っています。しかし、地域の学校が、地域の特色を出して生徒の夢を叶えてあげようという意図は十分理解できるものです。その特色の効果に対する評価というものがどのように行われているのかという事がありますが、教育というのは人づくりであり、評価としてここまで達したからいいという基準みたいなものは難しいと思います。ですが、特色あるコースの点検という事は1度行う必要があると思います。

中高一貫教育に関しては、連携型はこれまで取り組んできており、そろそろ方向性が出てくると思います。併設型については、三本木高校において平成19年度からスタートしますが、どこのスパンで次のステップにつなげて行くのか、評価するのかという事

があります。三本木高校をモデルとして行ったものを、青森県の併設型中高一貫教育のビジョンとしてどう判断するのか。1地区の取り組みだけで行くのかどうか。そうすると、10年後にもう1つ作ってその後に評価しましょうとなるとまたずれてしまう感じがしますので、もっと他に2つか3つ作って対比して評価するという事があっても良いのではないかと思います。

定時制の問題ですが、先日ある定時制高校を受験するという生徒と転学するという生徒に関わる機会がありました。生徒の話を聞きながら、定時制高校の在り方というのは、その生徒にとって次のステップに進むものになっていると思います。そこで各6地区、各教育事務所管内に1つは残して欲しいと思います。工業系の定時制の存続について詳しくは分かりません。不登校だった生徒やコミュニケーション不足で高校に行けなかったような子ども達ももう1度やり直すチャンス、進路変更するという部分では定時制高校は各地区に1つは維持して行きたいという気がしています。

普通科の中でも、進学する生徒の多い学校、就職する生徒が多い学校などありますが、どの学校においても資格取得など業務系に近い教育はやっていると思います。その辺について郡部の学校、地域の学校、小規模の学校については、普通科でも商業系や情報系の資格取得などは必要であると思います。

農業高校の問題については、県の政策に絡めた方向性をどのように作って行くのかという事を考えると、農業高校を安易に統廃合していいのだろうかという思いがあります。実情として、農業高校に行きたくて進学している生徒は何割くらいいるのでしょうか。地区で自分が進学できる高校は成績的にこの辺だからという事で、まずは県立高校に入るという事を目標として学校を絞っている生徒もいると思います。しかし、実際にやってみたら意外とこれはおもしろいという発見があり、そこから色々な農業の分野に進まれています。いわゆる実働に従事するだけが農業ではありませんし、色々な農業関連に携わるために進んで行くという事だと思います。そういった意味で考えると、農業高校を安易に統廃合する事には心配があります。

蛇口議長

農業高校については、相当考えた方がいいですね。りんご学科についても皆さんからたくさんの意見があったと思います。県としては相当なリスクを背負って始めたのだと思います。

B委員

農業高校の位置付けという事については、皆さんから心配をいただいている所ですが、現実には農業に対しそれ程たくさん人が要らなくなってしまうという事もあります。農業高校に行っても、農業を継ぐ人がいないのです。それは、農業は大切な産業で、お金にもなるというものであれば一番いいのですが、元々農業というのは手間がかかって、生活して行くので精一杯という産業なのです。ですからどこかで支援しないと成り立た

ないので、国なり地域がサポートしないと成り立って行かないものです。ですから、食料を生産する中等教育として、農業高校がしっかりとした教育体制を作って行かなければなりません。そこにあればいいというものではありません。例えば藤崎園芸高校や名久井農業高校は、生徒が少ない状況ですから先生も少ないと思います。十分な教員が配置できない状況では教育を十分にできませんので、どこかに集約する事も必要だろうと思います。また、皆さんの意見を伺いながら感ずるのは地域という事についてです。青森県はとても狭い訳で、こんな狭い所の全ての地域に高校をとというのはどうかと思います。今はJRなどで通える状況を、国なり県なりが進学できるよう整備すべきだと思います。また、奨学金制度を利用するなど、子供自身が高校教育を受けるのだという自覚を持たせて欲しいと思います。大学でも奨学金などでお金を借りられるのですが、学生は積極的には借りないようです。親からもらうと、返さなくていい訳ですから。高校は義務教育ではないのですから、自分で学費を借りて、学んで返さなくてはいけません。そういう事を教える事があってもいいと思います。そういう事も提言に入れて欲しいと思います。

#### I委員

全体として5ページ以降の話を少しさせていただきます。基礎基本であるとか、基本的な生活態度とかについては、普通高校、職業高校共に、これまでの高校教育ではあまり重視されていなかった部分ではないかと思います。

その中で、職業高校の部分で言うと、農業でも水産でも昔の業のスタイルに捉われ過ぎではないかという事があります。今の農業、漁業などは、養殖であるとか付加価値をつけて売って行くという事で商業高校ともつながる所があります。職業高校を1つの産業だけではなく、産業総合高校や総合技術高校といった形で全国にできた学校の青森バージョンを考えられないでしょうか。この他に、起業、創業というようなビジネス感覚を育成する事があります。今後は株式会社が作りやすくなるとか、あるいは農業に株式会社が参入するなど世の中の動きが大きく変わって行きます。今後、農業、漁業も法人化され企業となり、農業高校や水産高校などを卒業した人達が技術を持って株式会社に入社する事になって行くだろうと考えています。

最後に、企業の人事担当が求める人材についてお話したいと思います。1番目は基本的な生活態度、2番目がコミュニケーション能力、3番目が協調性、4番目が職業観、就業意識です。我々青森県民というのは、NHKの生活調査によると全国で一番テレビを見て、一番会話の時間が少ないようです。逆に、沖縄県はテレビを一番観なくて、一番会話をしているという事です。もう少しコミュニケーション能力を高める勉強をする事によって、道も変わってくるのかなと思います。

#### J委員

最終的な目標は、人間個々が持って生まれた能力や、興味・関心などを身につけて学

んだ事を社会に出て還元できるように育てる事、その基本となる知識やモラルを身につけさせて世の中に出すという事だと考えています。そのために、各学校とも工夫していますが、その中でも多様な生徒がいるので、世の中に対応するためにはある程度の規模は必要だと思います。ですから、6学級とか4学級というのは非常に妥当性があると考えています。そういう中でも、途中で適応できなくなる生徒が結構います。そのための各学校のセーフティーネットというのはありますが、学校間や社会におけるセーフティーネットもやはり必要だろうと思います。そういう事で通信制、定時制、高校卒業程度認定制度、コース制などがありますが、そういうものに対する県民の理解がまだ足りないと感じています。私の学校に入って来る生徒は、入学したからには必ず卒業したいと考えるようですが、そういった執念も確かにいいとは思いますが、それぞれに合った道が他にもあるのだという事を、生徒や保護者、社会にも是非知って欲しいと思います。

先程も紹介がありましたが、定時制から弘前大学に入学する生徒や、本校から尾上総合高校に転向し弘前大学に進学した生徒もいます。一寸視点を変えると色々なバイパスがありますが、その辺はセーフティーネットとして維持して行かなければならないと思います。将来全員が青森県で終わるという必要はないと考えています。何かの時期に県外にどんどん出て行き、自分の世界を打ち破り修行をして帰ってくるという事も非常に大切だと思っています。むしろそういう人間の方が青森県のためには有用ではないかとも思っています。そのためにも、学力など色々な興味を満足させるような事ができなければいけません。どんどん青森県から出て行くべきだし、出すべきだし、県外から青森県を郷土という思いで応援してくれればいいと思います。そして、チャンスがあれば青森県に帰ってきてくれればいいのです。青森県だけで物事を考える必要はないと感じています。

#### 友田副議長

ビジョンと言いますか、私なりに全体の方向性という事で確認したいと思います。この会議はグランドデザインという事で壮大なイメージを抱いていますが、その割には暗い面が多い気がします。青森県が少子化により生徒数が少なくなっている中で、それに対応した適正な学校配置という事は必要な事だと思います。有効求人倍率や大学進学率については全国的に比べ決して高いとは言えない訳ですので、この会議がその取っ掛かりになればいいと考えています。

青森県は、米、りんご、木材などの産品の他、エネルギーでは日本の生命線を担っていますので、全国的に見れば大事な県だと思います。人口は減っていますが、何とかして行きたいと思います。また、人づくりの面で大きな役割があります。今やっている事は一見マイナスに見えるかもしれませんが、減って行く中で現状の教育レベルを向上させたい、少なくとも下げないという事だと思います。そのために何かが少なくなるとか、何かが無くなるというのはマイナスのような感じは受けますが、再生のステップとしてなくてはならないと思います。一見マイナスなのですが次の復活、上昇して行くきっか

けだと思えます。青森県は住みやすい所でもありますので、働く場があるれば人口も増えてくるのではないかと思います。創意工夫して人口が減らない市町村もありますし、そういう意味で第2専門委員会でのどのようにすべきかを議論していただきたいです。中高、高大の連携もそれぞれ議論されていますがまだまだ部分的なので、小・中・高・大の全体で連携して行く事も人口147万の県であればできると思えます。県、市町村、私学など設置者が異なる事から垣根が高い部分はあるのですが、そこを様々な工夫をして小・中・高・大やバイオセンターや工業センターなど、色々な研究機関が関わって子供を育てて行く事は、時間がかかると思いますが、子どもが少なくなる中で向上して行く事になると考えています。

#### 蛇口議長

審議結果という事ですが、これまで個別の問題を中心に検討が終わりました。今後、この案が骨格になるのは間違いないと思えますが、今後どういう風な内容なり、前文なりにして行くかという点について、皆さんの意見を伺います。

例えば、先程高山委員から提案があった、総合技術高校や総合産業高校や、起業・ビジネススクール的な面を書き加えるとすれば、要するに商業高校の性格を変えて行かなければならない訳です。それが変わり、普通高校にもIT、情報、ビジネスを核にしたものがあると幅が広がります。しかし今最大の問題は、商業高校がビジネススクールには成り得ないという事です。それは指導する先生がいないという問題があり、そういう事が解決できないと実現しない訳です。そういう部分までこの答申で織り込みますか、織り込みませんかという事があります。農業の問題も、これについても決して非難している訳ではないのですが、10年後と考えると他の県と共同で高大連携を考えてもいいのではないのでしょうか。10年後には3県は一緒になっているでしょう。そういう風な所まで先行したような形で、ビジョンとして盛り込むかどうかという事があります。まだ皆さんから言い足りない事もあると思えますので、いかがでしょうか。

#### B委員

農業関係について、少しだけ話します。青森県営農大学校というのが七戸にあります。この大学校は4月から専修学校化するという事で取り組んでいると聞いています。そこに入学し卒業すると弘前大学や他の国立大学にも編入の条件ができます。今はそういう学習の仕組みがどんどんできています。大学間では単位の互換があり、空席があれば入学も可能です。勉学を高める教育制度がどんどん進んできています。

#### 蛇口議長

色々な取組みがありますが、スピード感が無いと思えます。また、特色を出すというレベルには結びつかないという感じがあります。グランドデザイン会議ですから、これまでの骨子をまとめるくらいならプチ会議でいい訳で、この会議はそういう事ではない

と思い皆さんと協議している訳です。それをどうまとめるかというのは、非常に難しい事です。

#### B委員

思い切った提案をするべきだと思います。ここはそういう構想を作る場ですから、後は行政サイドでどこまでやるのか検討すればいいのであって、私達は必要で重要な提言をしっかりと行うべきだと思います。

#### 蛇口議長

第1専門委員会には、校舎制の統廃合基準を作ってもらおうと言うか、全校で100人はどうかという事もあります。そのような役割ではないと思っています。ビジョンを打ち出すというような話については、現場の先生方からすると違和感があるかも知れませんが、時代の変化の先取りというのは容易な事ではなく、重要な時期でありますので、注意すべき事等について意見をいただきたいと思っています。

#### K委員

今までの議長の話の方向性については大賛成です。私は第1回の検討会議の時にグランドデザインですから大きく捉え、将来の青森県の教育がどう在るべきかという事ではないのかと言ったら、事務局から県の財政の事も考えてもらいたいという話があり大分気持ちが萎えていたのですが、先程議長が言ったように教育の分権も含めて、少子化をきっかけにして将来的な県の教育の在り様について大きく夢を語れるような答申が良いのではないかと思います。後の判断は県民にお任せするという事でいいのではないのでしょうか。思い切って表現するべきだと思います。

#### H委員

このグランドデザイン会議が新聞にも出るようになってから、保護者の関心というのは地域の学校の事、自分の目の前にある問題に終始していて、私自身もそちらの方に気持ちが行ってしまっているような気がします。10年後や更に長い先の事を見込んだスタンスで考えた場合、もっと大きな提言も必要だと思います。また足元に戻ると、色々な事を県民が知らない部分があります。先程の営農大学校の事などもそうですが、中学生の保護者や中学生が進路を選択するための情報が少ないという気がしますので、保護者も情報をキャッチできるように、もっとアピールする事が大事だと思います。方向的には大きなものを出すという方向でいいと思います。しかし、新聞に記事が出てからの保護者の興味は、実際にはこの後どうなるのかという部分です。ですから、次にどうなるのかという事も十分に検討していただきたいと思っています。決めるにあたってのプロセスについても説明されていると思いますが、どうも旨く情報が伝わっていないような印象もありますので、十分理解が得られるようお願いしたいと思います。

蛇口議長

根本的な事になりますが、グランドデザイン会議は何をやるのかという議論をしてきた訳ですが、やっところまで来たという印象です。最終的にはその考え方に基づいてどのようになりますか、という事だと思います。校舎制については、先程の意見のとおり、地域性というよりは教育の質、高校教育であるという事に力点を置かざるを得ない訳で、そういった基本的なスタンスを入れるという事が大事だと思います。校舎制というのは現実的に実施しますが、我々が回答を出すべきものではないと思います。将来的なスタンスについては県教育委員会が各地域の傾向を踏まえて決めればいい事で、我々がグランドデザイン会議で掲げたビジョンや方向性については県教育委員会において十分参考にされるはずです。

E委員

答申というのは、最終的な形がどういうものになるのか。細かい事で恐縮ですが専門委員会でもとめていただいた中で、「～を図る必要がある」という表現ですが、少し弱い気がします。「図るべきである」という表現にするとか、その辺の事についてどのように捉えれば良いのでしょうか。

蛇口議長

当会議は、ある程度の方向性を示してまとめる訳です。ただし、県教育委員会はその方向性を必ずしも聞く義務はないという事ですから、「～するべきである」という表現は少しそぐわないかもしれません。その辺は、事務局と相談して進めたいと思います。

中間まとめの今後の作業について、事務局から説明してください。

事務局

中間まとめという意味は、いわゆる中間報告とイコールという考え方ではなくて、これまでの検討会議、専門委員会、地区部会の意見をまとめて、今までの検討結果としてこのような事が検討されましたという事を、議長から教育長に報告いただきたいと考えております。したがって、それがコンクリートされたものという事ではなくて、あくまでも今までの検討状況のまとめであるという事です。

蛇口議長

それでは、内容的には相当思い切った事も書けますね。

事務局

これまでの検討内容については、議事録という形でホームページに掲載し、県民の皆さんに示してきました。しかし長文になりますので、理解するのは難しいという事もあ

ります。そこで、このグランドデザイン会議から検討のまとめを県教育委員会のホームページに掲載して、県民の皆さんから意見を求めるという方法もあると思います。これについては、あくまで検討会議で決めていただく事だと思いたすがいかがでしょうか。

蛇口議長

これまで統廃合計画等についても掲載してきましたし、ある程度まとまったらそれをホームページに掲載して意見を伺いましょう。

それでは、本日の審議内容は整理し、中間まとめは議長一任という事にさせていただきますと思います。中間まとめは議長から教育長へ報告という事で、4月下旬になると思いますが調整していただいて、それについては副議長によろしく願います。県民から意見を伺うという事については、事務局で対応してもらいますので願います。審議計画については、検討会議が7月と9月、専門委員会が5月と8月を予定していましたが、日程が決まったら連絡を願います。

以上これで審議を終了させていただきます。

閉会

事務局

長時間にわたりお疲れ様でした。資料を読んでいただいて、疑問点等が出てきましたら、事務局の方に連絡を頂ければ対応しますのでよろしく願います。これをもちまして、第4回検討会議を閉じさせていただきます。